

## 授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2020（前期）生活環境学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生理人類学	山崎 和彦	対面での筆記試験が実施できない為、毎回の小テストを集計して成績を判定した。すると、設問が2つあるのに、1つしか回答しないケース、あるいは音声資料で注意点を述べていたが、これに応じないケース（つまり教材の視聴が不完全）が多々あり、自ずと成績は低迷することとなった。遠隔教育では、実施する側には多大の負担があり、そして学ぶ側にとっては、平均的には学力低下をもたらすこととなる。
建築概論	槇 究	Q6の進度の点がやや低め、後は平均的な評価を貰ったというところ。その中で、Q13で高い評価を得ていたのは嬉しいことです。この授業の狙いは、正に建築に興味を持って貰うことなので、「更に学び続けてたい」と思っ貰えたら、成功と言えるかと。みなさんの今後に期待しています。
住居学	橋 弘志	zoomを使用した双方向型の授業で、基本的にiPadによる板書を共有する形で授業を行った。板書内容を後からmanaba掲示板に上げたことで、授業の振り返りには役立ったようである。毎回、学生からの質問に対する回答に時間を使ったが、復習の意味と、他の学生の考え方・疑問に触れることができるという意味で、顔の見えないオンライン授業では有用だったのではないかとと思われる。
ファッションビジネス演習	大川 知子	今回、アンケートに協力いただいた方々は半数ほどでしたが、この授業を通して、「自分の成長を感じられた」との問いに、「どちらかと言えば当てはまる」を含めると、全員の方々からの賛同を得られたのが、素直に嬉しかったです。初めてのZoomでの授業は、準備の大変な労苦と、また、操作の不手際が多々有りましたが、逆に言えば、こういう状況だったからこそ、みなさんの主体的なサポートが得られたとも思います。後期も、多くの授業で、この状況は続きますが、引き続き、宜しくお願いします。
デザイン基礎演習 a	塚原 肇	授業内容は理解できましたか。 スケッチは描けば描くほど目に見えて上達します。 今後も続けて練習してください。
人間工学実験	佐藤 健	リモートでの実験は、いかがでしたか？ただ参加するだけでなく、データの処理ので一たを合体させたり、統計処理をするには様々な分野のスキルが必要です。
デザイン基礎演習 a	塚原 肇	授業内容は理解できましたか。 スケッチは描けば描くほど目に見えて上達します。 今後も続けて練習してください。
建築法規	橋 弘志	リーダーチャートをみると、全体平均とほぼ同じ評価となっている。今年はzoomによる双方向で授業を行ったが、そのための資料作成&manabaへの提示や確認テストの準備で思わぬ手間がかかり、毎回ぎりぎり資料がアップできるといった状況となってしまった。また、画面共有による板書と資料提示の切り替えがうまくいかないことも多く、半期の間、試行錯誤の連続となった。
生活環境基礎 a	槇 究	アンケート結果を拝見しました。 Q7の説明の分かりやすさが平均よりやや低く、Q8の双方向での工夫がやや高い、後は平均的な評価と言えるかと思います。 数学がメインなので、オンラインでの指導に難しさを感じましたが、今後、分かりやすさについて、次年度に向けて工夫できる場所がないか考え、次年度の授業に取り組みたいと思います。
繊維高分子材料実験	加藤木 秀章	日常生活で布を扱う機会が多いです。いろんな利用例などを見つけると、驚くことが多いです。テキストなどで予習してみると、より理解度が向上すると思えます。
設計製図基礎	橋 弘志	この演習はとにかく毎週課題をこなすことによって、製図のスキルを向上させることに特化したものである。とにかく自宅学習が必須となる。今年はオンライン化ということで、どうせなら製図のプロセスを動画で配信することを初めて試みた。途中から、画像を反転したりアップにする方法がわかったり、後半ほど分かりやすいものになったと思う。途中で止めたり見返したりすることができるのは、オンデマンド方式ならではの利点でもある。図面の提出および添削の方法については、再検討の余地がある。
生活気候学	山崎 和彦	対面での筆記試験が実施できない為、毎回の小テストを集計して成績を判定した。すると、設問が2つあるのに、1つしか回答しないケース、あるいは音声資料で注意点を述べていたが、これに応じないケース（つまり教材の視聴が不完全）が多々あり、自ずと成績は低迷することとなった。遠隔教育では、実施する側には多大の負担があり、そして学ぶ側にとっては、平均的には学力低下をもたらすこととなる。

## 【2020（前期）生活環境学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
設計製図基礎	橋 弘志	この演習はとにかく毎週課題をこなすことによって、製図のスキルを向上させることに特化したものである。とにかく自宅学習が必須となる。今年はオンライン化ということで、どうせなら製図のプロセスを動画で配信することを初めて試みた。途中から、画像を反転したりアップにする方法がわかったり、後半ほど分かりやすいものになったと思う。途中で止めたり見返したりすることができるのは、オンデマンド方式ならではの利点でもある。図面の提出および添削の方法については、再検討の余地がある。
アパレルデザイン基礎実験	川上 梅	1年生前期の授業で、入学直後の授業でしたが、75%の方に回答していただきました。実習を伴う授業内容がオンラインで伝わるのが不安でしたが、「総合的に判断して満足」では、「とてもよくあてはまる」67%、「どちらかといえばあてはまる」33%でした。実習室で授業が行えることに越したことはありませんが、オンデマンドでの実習では、資料を見ながら理解しようとする力は、例年よりも身に付いたと思います。
デザイン史	塚原 肇	デザインの歴史を知ることは大変重要です。先人がどのようにデザインを捉え進化させていったかを知ることにより今後のあなたの方の進む方向が見えてきます。授業を通して興味を持ったデザイナーや作品があれば進んで調べてみてください。
インテリアデザイン演習	山口 照也	まず、課題Ⅱの結果についてコメントします。 担当教師としての純粋なA評価以上は9名（20%）でしたが、皆さんの学生評価も加味して、A評価以上は11名（25%）になりました。D評価はいまいませんでしたが、未提出者（失格）が1名いました。 毎年、皆さんの提出図面を細かくチェックし、良くない部分だけでなく、良い部分も見つけ出すべく努め、「山口の講評」としてまとめるようにしています。作品は所属ゼミに返却しています。 アンケート結果については、次のようにコメントします。 ①「成長の実感記述」と「自由記述」に12名のコメントがありました。12点とも好評価の内容でした。 ②アンケート各項目では、「自己採点」以外はほとんど当該区分平均や全体平均より高い数値で、望ましい結果だったのですが、アンケート回答率そのものが56.8%（25人）だったので、当該科目平均としてよいのかは微妙です。また、コロナ禍でリモート授業を強いられたために、昨年の当該科目平均より若干低くなっている項目がありました。 「この授業の実施方法について」のアンケート結果が、双方型（41%）、オンデマンド型+双方型（29%）、対面型（18%）、オンデマンド型（12%）でした。本年は「対面型+双方型」として実施しましたが、担当教員としては満足できる方法ではありませんでした。演習の授業なので、対面型を基本とし、緊急時対応として双方型でフォローする準備をしておくのが望ましいと考えています。
テキスタイル材料実験	加藤木 秀章	世の中でテキスタイルを扱うことが多くなり重要な知識になります。また、事前に予習を行うと当日の授業内容についてわかりやすくなります。
インテリアグラフィック演習	槇 究	06と07の評価が平均よりだいぶ低めでした。対面授業で実施しましたが、補講で補った部分がありましたから、そこに参加できなかったケースなどで自習的になってしまった場合など、難しさがあつたのだらうと思います。もう少し、丁寧に進める必要があつたと反省しています。
インテリアコーディネート演習	山口 照也	アンケート提出者は1名でした。 提出した人、ありがとう。 アンケート結果に対するコメントは差し控えます。
食物学	佐藤 幸子	授業内容は、実生活にとっても役立つ内容です。これから食環境も変容していく中、自分自身で情報収集し、臨機応変に対応できるように学んでいきましょう。
生活環境学セミナー	大川 知子	この「生活環境学セミナー」の評価は、通年の為、みなさんも記入がし難かったことと思います。今回は、特に告知をしませんが、それでも半数の方々が、アンケートに協力下さって、嬉しく思います。本セミナーの本領は、これからです。後期も頑張ってください！引き続き、リモートですが、何か相談事があれば、どうぞ遠慮なく、いつでも申し出て下さい。
生活環境学セミナー	加藤木 秀章	自主学習は重要であり、ノートづくりも学ぶ上で重要です。自主的に授業などの予習・復習を日々の心掛けましょう。
生活環境学セミナー	川上 梅	例年、常磐祭での発表までは学生中心に主に造形的なゼミ活動を行っています。今年はリメイクTシャツを制作してSNS上で動画配信を行うことを決め、常磐祭に参加することになりました。しかし、全てオンライン授業であったため意思疎通が十分にできず、十分なゼミ活動ができなかったことは反省したいと思います。

[2020（前期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活環境学セミナー	牛腸 ヒロミ	前期はエクセルを中心としたPC技術のスキルアップが目的です。この能力は個人差がとても大きいので、十分に理解できなかったのであれば、練習をしてください。内容がよく分からなかったのであれば、遠慮なく質問をしてください。3年ゼミや4年卒研は与えられるのを待つのではなく、積極的に指導者と議論をして知識や技術を高めてください。皆さんの潜在能力に期待しています。
生活環境学セミナー	塚原 肇	前期は椅子作りを行いました。初めての本格的なプロダクトデザインでしたが思い通りのデザインができましたか。今回はデザインのプロセスを習得することが目的でした。このプロセスを2021年度の卒業制作に活用してください。
生活環境学セミナー	槇 究	まだ途中ですから、コメントは1年が終わったところで。
生活環境学セミナー	山崎 和彦	遠隔のゼミには、それなりの良さがあり、欠席や遅刻が格段に減る。ただし、討論が成立しない。対面でも同様だろう。諸君がmanaバのレポートに書き込んでおられる所感の類を現場で述べてくれるとよいのだが。
ファッションビジネス論	大川 知子	今回、アンケートに協力いただいた方々は8割弱でした。初めてのZoomでの授業は、準備の大変な労苦と、また、操作の不手際が多々有りましたが、逆に言えば、こういう状況だったからこそ、みなさんの主体的なサポートが得られたとも思います。また、授業中にもお伝えしましたが、個人課題は、総じて素晴らしいレベルだったことが、とても印象に残っています。後期も、いろいろなモノ・コトに興味と、疑問を以って取り組んで、ご自身の成長に繋げて下さい。
アパレルデザイン基礎	川上 梅	衣料管理士資格取得の必修科目ですので内容が多岐に亘っており、全てをしっかりと理解するのはそれなりに難しいと思います。今年はオンデマンド授業でしたが、昨年度の評価と比較すると、「説明は分かりやすかった」では、「よくあてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」を合わせると7%下がったものの、「総合的に見て満足」では、今年度も昨年度とほぼ同程度でした。
ユニバーサルデザ論	塚原 肇	ユニバーサルデザインは建築、アパレル、プロダクトなど全てのデザインの基礎になります。しっかり理解して、常にUDを意識したデザインを行ってください。特に今年のようなコロナ禍ではUDは重要度を増します。
伝統衣服実習	川上 梅	実習をオンラインで行うことには、お互いに変な点がありました。オンデマンド資料には、和裁に関する詳細なことまで記述しましたので、パワーポイントの隅々までよく見た方は、和裁に対する理解がかなり深まったと思います。オンライン実習でしたが、「自分の成長が実感できた」「総合的に判断して満足」では「とてもよくあてはまる」という意見が88%でした。
テキスタイル管理実験	牛腸 ヒロミ	実験は授業で学んだ事実を実践を通じて理解する科目です。授業での学びが理解できていることを前提に説明しています。従って、予習復習時間を十分取っていただいてもかかわらず十分理解できなかったのであれば、実験と関係の深いテキスタイル管理学や染色加工学、テキスタイル材料学などの授業の復習を十分に行った方がよいでしょう。
工業デザイン概論	山崎 和彦	対面での筆記試験が実施できない為、毎回の小テストを集計して成績を判定した。すると、設問が2つあるのに、1つしか回答しないケース、あるいは音声資料で注意点を述べていたが、これに応じないケース（つまり教材の視聴が不完全）が多々あり、自ずと成績は低迷することとなった。遠隔教育では、実施する側には多大の負担があり、そして学ぶ側にとっては、平均的には学力低下をもたらすこととなる。
生活空間計画	橋 弘志	リーダーチャートを見ると、全体平均とほぼ同じか、やや高い評価となっている。スライド中心に説明していく授業であったこともあり、オンラインへ比較的スムーズに移行できたと思われる。zoomを使ってなるべく学生の意見を集めながら進めようと思っていたが、一方的に話をする時間が長くなってしまった。例年よりも授業の進行がゆっくりになってしまったためか、内容が最後まで行きつかなかったことも反省点である。
プロダクトデザイン論	塚原 肇	プロダクトデザインの概要は理解できましたか。使用した教科書をデザインの辞書代わりに活用してください。そして是非、プロダクトデザイン検定1級にチャレンジしてください。

## [2020（前期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
プロダクトアミニティ演習	不破 輝彦	オンデマンド授業なので個別指導コレクションを多用した（受講者9名、全105件）結果、双方向授業等工夫（設問8）の平均が1.4と高かった。成長実感（設問11）の平均は1.8で、どちらかと言えば成長を実感したとの回答であり、授業として一定の効果は認められる。授業満足度（設問15）も同様に1.8（どちらかといえば満足）であった。Windowsパソコンとエクセルの使用が前提の科目だが、各学生の自宅パソコン環境が条件を満たさない場合があり、大学のパソコン施設を使わない場合の授業方法の検討が必要かもしれない。
感性と生活情報システム	佐藤 健	フルオンデマンドと時々テレコミュニケーション会議をいれてみました。教育方法としてはかなり進歩的です。楽しんでもらえたら幸いです。